怪異談 巻一

花實秋錦

1658
1

花実義経記

作者真磧

目録 一之巻

四条中納言の兄弟の忠義
大内の出看病のあらん軍の首途
実仁輪廻をぬけるげの武士の女房
忠仁春宮に二人ぐ者

座のきしめ箱の中の法師の坊
奇とをつく大將の四代迷を方便
ゆゑ乃者よ命をとりて親乃悪心
哭親を思のもどかしかりし縄目
身信乃國取三筋町の賓論
をつのはをひを引取きく如命
無を色をあつくいよひ大臣
揚銭をつくれぬ大ひつぎ

心乃長を指殺しと兄弟ぐ恩義
強南軒ぐ曰おるよをつ和おくしてまつ義をつおくをつ和
あつくをつ義ふわしぐ心をつ義ぐ旨ぐ来をふ見れらむ
をつ和利欲のおふをつ中いもべて法義をつ者行
へをつをつのくをつをつと他念をつくをつ義をつ又ぐ賊をむさ
ぼつ仏徳をにつけく強て落をつ義をつめをつど若をつ人
て出をすつ義をつ俸禄をつ義をつ義ふなつ
ちをつべ奥ぐ又ナ宗ぐ押領役結を府の内筆徒五位上義原
義働をつ徒義を義ぐ義ぐ田利性を文恒居ぐ孫性
を卯みをつの法働ぐ孫をつ南風後三年の戦ひよ八懐を卯
義家乃義居をつく三の働をつ粉をめ言ぐ

ゆへ[illegible]奥州[illegible]
[illegible]
[illegible]

かまどの元祖を八幡太郎と申し伝へ侍り
義經先傷の鎧八世の目の三ツ巴沢信の
九郎左衛門の子孫と云ふ人あり
より親子兄弟二人の子をもつる鎧
ねるあり
其子兄弟二人の子孫
兄弟の中一人
貧病仕り
忠とつ一人いらでまつく
とつくとのあり
姫一人のこりあつく貧病

三ツ三郎右衛門殿とあつたりまの殿様御見ごろのいとを拾はせ
まはのまはのこなさん仰るりとあり日まあんどのれよの拾をてあげ
えんせと奥とあるせ笑ひとろくとろれ御信服と勇とてさんを
きつのつわるあんどう名乗りをくたちかくよりんさ出のて世ごの
とこづくきうきうれく唐くくうとて撞き三郎源左衛信
おひろひ和歌の御上さんをこどもく世い魅ふこまつくえこの看病と
仕まし素人ひ義の出僕しと一命まのげうら初よ初めて暮まと仕し
文武両道みい和歌があるとわくくさだいとこはるれ方ちんと仕て看
病と仕まとひとれど出僕をこ申しもい沢のみきう出僕嘆ぜむ
義勇とは大きうちがひきをるれお河の和歌に跡りようが世の人法
いはあはかちあの方一文上ひ義の病家中後ちくる面ろあの御きこ法

きぐれ仕義の家をおきあ兵衛の御面関中の御国の和歌の孔武
中ごつとあるんどうるまり素才後まれ出僕仕り世ま素する
分捕しと高の名をあげりと人仕気まみまりと言こでとりなまで
いりとよ出僕世ひ義お仕せば兄ひ出僕信して文ひ出とりそみりく
一命をおりこ宝のお仕仕りと仕りまを世を勝めりやく看病一方は
健気出僕りと命をおりまどこの兄世んとりくんでお仕まりとりれ
てひ出僕信が武士の一分をとるこ記兄の礼をまりとりまとひりまあり
ぎえ兄が親よまりこうひ和と出ぼまりげくひ義いやりこれるつく
看病をりとりれよ才れ出れるりやりとこひ跡よのこれとりひを
きいれ出僕大きうの素多をとんど強腰のお仕まあの兵とりとも才こ
りとりをりとれ同じ恥辱をりひ出僕れ出れるまを文せ

親の病をとさてく我塙のあるもひく武士なるゝ親の事さへ
かりうね塙よ見をそてゝオゞ分をとゝ屋さう越ゞて信の授すて
盗と出るはをを書をとゝれ塙をとゝ時を親をとゝれ及をれて
をを身をとゝるゝとのへ塙へ仕腸をるゝ塙よをを思へゝ今ゝ塙ゝ
へ親見へゝあるゝ塙神の伝ゝをゝいるゝく塙よをゝあり業せをゝをゝ
気でゝゝ・勘当あゝへをれゝてをれまを義絶をも許せをゝいね
ゝ伝・勘当ゝ塙へ出を用とゝ塙をあゝけ者をおゝてゝをれゝレやをゝい
ゝんゝるゝ云あゝ及ゝ・ゝ塙よのゝれと接病よゝひゝるゝもゝをれ
大オゝあゝじゝんゝるゝ・気ゝ補ゝひ知をゝるゝ・ゝ出ゝ引せね
ゝをゝゝゝゝ見ゝむゝるゝゝゝんゝるゝ塙ゝ雑ゝ云勘当をゝゝゝゝ
せんゝをゝあゝゝゝ見ゝとゝをゝかけゝゝるゝ養ゝゝと力ゝ塙ゝを

とりけゝれゝ二人のをゝあゝゝとゝをゝゝ塙ゝあゝ方へをゝがりゝさ・兄オゝれ
ゝゝ出オゝゝゝゝへゝまゝゝ塙事ゝゝとゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ・ゝ・ゝ・

[illegible]

[illegible]

[illegible]

身を隠し逃げようがひ時とゐどこいつ事出べうべ時事知を後
ちくそそ六時ようろう妻ち業
初ようあり雪乳大将宗豊以下の国人ども家事ゐ
ようの出ようとりとりまし判官義経
く出初とあるん事具世略
抜て甲の紙をあうとん妻ち
ちうも侵攻の三郎強ひ郎
侵攻後河内人とゐまし
外の実補三条人義
扶義経堀川
ろう・あり附判官滝系
をそ出ようの人が
ようよかくれどく九郎
信ち系ゐろの
頼と地ようれ
らがいづとく九郎
の事ちれいやう
ゐり人の人伊
せて出覚ある
地をもれて
何ろれ北方

ゆうれい

紀貫之のうたとたかいとをもて業平のうたとをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ
しるしの中にとりてこれをあはせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]町と今[illegible]の生[illegible]れ[illegible]河[illegible]の[illegible]顔
堀町の貧さ初[illegible]さ[illegible]海[illegible]人[illegible]
てかゝり考きけ[illegible]
らど地女[illegible]と[illegible]
初[illegible]
[illegible]
時の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
日の[illegible]

人[illegible]
八[illegible]
ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かと思ひあづかり給はるべくまゐりつぎてと張る者まかりて在
あ（ゆ）べきこと申判られてそあ〜ふとちそろ〜かつく女房ぞ〜鑄
をかられく出あるひ時のあげ屋うさがひもの亦んぞ〜佛ける
色・ち行こ傳乳母て魅ちよ加てすゝめ宿屋ちりのもこ奇妙の
未社大勢ちまてれ言ものれ太らさ相こい鋒とりまて金物の
ちの月毛こ古代ちい稼ちう女命・情あて大乳こはわつさ問伝を
丈徹ち俗ら白鈴ちれ地ばひらかやきあ〜ちく肌雪とあ
らをひいちう寄あを麻ちれ親でちりとのはちうとはて在
ドうう男こ武者をちとうれいちて一日も涙とのこ事ちれいかり
をあちりそ弟くあ鳴こ義（鶴）ちるちあれ天ちと弁あ命芳ちう和
れ浪ちう鶴光ちくあげつありてはいるあ〜服の男こ紙ちらん

れ手紙ちの白せどはあ命と弁天の物封のこ美白とはちむかし
ちいとの人ぐ知ちくはあれ年あんてはもうれのちりつちと実乗
れ大臣去伝度の清兵とちく宇ちうれ移つ京ほ世度とのこ揚ち
と宮宿ちしく京では利の者社をあ〜つまてれ毎夜の事を
ち乗ぐあさ日を伯く白紙と移びいちふ呂今かこ十月と三ケ月ハ
矢月とち今紙盤の大臣れ池寿月中ハ花車盛方へ人のやく
ち事ちこ三年日ハ矢月の西ハ札今のあげ屋三松屋こ多貴呂れ
こづちり・寿もこやさづあり年間こ加ちゅ
ありとち年ちりあをこ〜表の事れ白ちれませいとち去れなの
猫ち大こふあちれてはりとハ紙の大臣えハとこそかりりて者くれ
ひちろ乳今はかりれ貴屋ちり銀とちこハ舞事そり扱もけう

[illegible]

[illegible]

[illegible]